

『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本における文化の翻訳：物質文化関連の言葉を中心に

その他のタイトル	Cultural Translation in the Chinese Versions of Toto-Chan : The Little Girl at the Window : Focusing on Words Related to Material Culture
著者	屈 豎萌
雑誌名	文化交渉：東アジア文化研究科院生論集： journal of the Graduate School of East Asian Cultures
巻	12
ページ	15-26
発行年	2022-11-30
URL	http://doi.org/10.32286/00027671

『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本における文化の翻訳

—物質文化関連の言葉を中心に—

屈 豎 萌

Cultural Translation in the Chinese Versions of *Toto-Chan: The Little Girl at the Window*: Focusing on Words Related to Material Culture

QU Shumeng

Abstract

Toto-Chan: The Little Girl at the Window is an autobiographical novel written by Tetsuko Kuroyanagi published in March 1981 in Japan by Kodansha. It has been translated into various languages around the world and has a large cohort of readers in each country where it has been translated. Among the translations are a total of 22 different Chinese-language versions from Taiwan region and the mainland of China the most of any language. The fact that there are so many Chinese-language translations shows not only that the story is well-understood by Chinese-speaking readers, but that it is a bridge for transmission of Japanese culture. This paper focuses on the translation of words related to Japanese material culture in Chinese versions of *Toto-Chan: The Little Girl at the Window*. Moreover, this paper examines how the translators rendered Japanese into Chinese, how they expressed cultural aspects found in the original, and how those concepts were conveyed to Chinese-speaking readers. These works can contribute to comparative research in Japanese-Chinese literary translation.

Keywords: 窓ぎわのトットちゃん、中国語訳、物質文化、文化翻訳の様相

はじめに

『窓ぎわのトットちゃん』は黒柳徹子によって書かれた自伝的物語であり、1981年3月に講談社より発売された。『窓ぎわのトットちゃん』は日本での「戦後ベストセラー」¹⁾であり、日本教育出版社の小学校国語教科書にも登場した作品である。²⁾ 現在、『窓ぎわのトットちゃん』は欧米、アジア地域を問わず世界の多くの国々で翻訳され、それぞれの地域で一定の支持を得て、幅広く伝播されている文学であり、読者層も幅広い。訳本が多いことと読者層が広いことは、『窓ぎわのトットちゃん』そのものの魅力を物語っていると言えるだろう。そのうち、中国語訳本は中国大陸の訳本と台湾の訳本に分けることができ、全部で22種類である。³⁾ また、他の言語と比べて最も多く、訳された時期も最も早い訳本である。⁴⁾

『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳本の出版の多さは、その物語が中国語の読者に理解されているということだけでなく、同時に日本文化の伝播の架け橋となっている面もあると言えるだろう。したがって、本稿では大陸版5種類⁵⁾と台湾版10種類⁶⁾の中国語訳を対象に物質文化に関する言葉の翻訳状況を考察し、訳者らはどのように異言語の文学作品を翻訳するか、その原作に見える文化要素に対して、訳者らはどのように表現し、どのように中国語の読者に伝えているかを明らかにしたい。異言語間の対照研究に資する資料としての一面も兼ね備えていると考えられる。

一 中国語訳本の研究現状

『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳本に関する研究は中国大陸の訳本と台湾の訳本のそれぞれを対象として行われてきた。中国大陸における中国語の訳本に関する研究は多いとは言えず、全ての版本を対象にするのではなく、訳本から一つ、あるいは二つを抽出し、考察することが多い。また、教育意義、図書刊行の面から考察したものが主である。日本語の擬態詞を訳す方法と児童文学の翻訳の策略などの面からの考察もある。一方、林玉恵、林立萍、鐘季儒らによ

1) 孫雅甜、「800万人が理想の教育に感動！－なぜ読まれる『窓ぎわのトットちゃん』」、『人民中国』、巻744、2015年、62-65頁

2) 「文部省検定課長「国民感情に即し」、『朝日新聞』、1982年6月26日。

3) 屈豎萌、「『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の伝播状況」、《東アジア文化交渉研究》、第15号、2022年、209-220頁。

4) 屈豎萌、「『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の伝播状況」、《東アジア文化交渉研究》、第15号、2022年、209-220頁。

5) それぞれ1983年の未申訳、朱濂訳、陳喜儒訳、王克智訳と2003年の趙玉皎訳である。

6) それぞれ1981年の徐思訳、1982年の李雀美訳と朱佩蘭訳、1983年の力争訳、1986年の蕭曉訳、1990年の黃靖淑訳、1992年の燕奴訳、1993年李朝熙訳、2002年の朱曉蘭訳および2015年の王蘊潔訳である。

って『窓ぎわのトットちゃん』の台湾版の中国語訳を中心として「比較語彙論」という視点からシリーズの研究が行われた。⁷⁾

鐘季儒 (2004)⁸⁾ は、蕭蘭訳本の特徴と問題点を中心に考察した。蕭蘭訳本の特徴として訳文は簡潔明瞭であり、四字述語を多用し、訳者からの補充説明が多いことを明らかにし、一方、原文とのニュアンスの差と誤訳が存在するという問題を指摘した。

林玉恵 (2009)⁹⁾ は擬音擬態語に関して8種類の中国語訳を調査資料として取り上げ、特にABAB型の擬音擬態語の特徴を考察するとともに中国語の訳語の問題点を検討し、訳されなかった語が多数あること、同一の訳本で同一の語が何種類にも訳されていること、訳し方の種類が多いこと、誤訳が見られることを指摘した。

林玉恵 (2010年)¹⁰⁾ は中国語訳本の文化の翻訳に関して、台湾版の8種類を対象として、文化関連の語彙50語を取り上げ、語彙分類表に基づき、「節、節目」、「神仏、精霊」、「サービス」、「行事、式典、宗教」などの28項目に分類し、比較研究を行った。その上で生活関連の言葉が文化関連の言葉の中で多く比重を占めていると指摘した。また各台湾版の中国語訳の対比を通じて、台湾の中国語訳の問題点及び訳し方を整理した。

上述したように、『窓ぎわのトットちゃん』に関する中国語訳本の研究は中国大陸版あるいは台湾版が別々に考察され、大陸版と台湾版の全てを対象とする考察はまだない。また、文化の翻訳に関して、その訳し方を紹介してはいるが、その背後の文化現象についてはまだ触れられていない。さらに、その訳し方を通じて、日本の独特の文化要素がその時期の目標読者にどのように伝えられたのかという点についてはまだ考察する余地があると考えられる。

二 原作に登場した「文化」関連の言葉

本稿では、林玉恵 (2010年) の文化の翻訳の分類方法を踏まえ、訳本の状況を考えた上で、「料理、魚・肉、乾物・漬物、家屋・建物、部屋・床・廊下・階段、袋」などのようなものは全

7) 代表的な論文には以下のものがある。①林立萍「中国語『窓際のトットちゃん』語彙データについて—第1章から第10章まで一例に—」(『台大日本語文研究』、第10期、2005年)、85-106頁。②林立萍「中国語訳『窓際のトットちゃん』語彙データの構築について—その2 単語分析についての諸問題—」(『国際シンポジウム比較語彙研究 VII』、語彙研究会、2004年)、23-34頁。③林玉恵「中国語のコード付けの基準と手順—中国語の『窓際のトットちゃん』を例として—」(『国際シンポジウム比較語彙研究 X』、語彙研究会、2006年)、29-40頁。

8) 鐘季儒、「中国語『窓際のトットちゃん』語彙データの構築について—その4 訳本の諸問題—」(『国際シンポジウム比較語彙研究 VII』、語彙研究会、2004年)、55-63頁。

9) 林玉恵、『窓ぎわのトットちゃん』から見る擬音語・擬態語の中国語の問題点—ABAB型の擬音語・擬態語を中心に—(『語彙研究会(7)』、2009年)、20-29頁。

10) 林玉恵、「日中翻訳における文化に関する語彙の訳語選びの問題点—『窓ぎわのトットちゃん』を例として—」(『日本語最前線』、2010年)、205-224頁。

て日本人の日常生活の中の物質文化に分類している。また、「文芸・旗など」と関係している言葉は社会文化に分類している。次に、「神仏・精霊、節・節目、行事・式典・宗教的行事」などの分類は日本の民族信仰と関係しているため、民俗信仰関連の言葉に分類している。最後、「文字や俗語」と関連している言葉は言語文化に分類している。さらに、(1) 物質文化に関する言葉の翻訳、(2) 社会文化に関する言葉の翻訳、(3) 民俗信仰に関する言葉の翻訳、(4) 言語文化に関する言葉の翻訳という四つの面¹¹⁾に分け、原作における文化に関する言葉の56語を確認した。本稿では、物質文化関連の27語についての翻訳状況を中心に説明する。その27語は表1のように示している。

表1 物質文化に関する言葉の27語

物質文化に関連する言葉	デンプ 玉子焼 ちくわ 佃煮 キンピラゴポウ ヨーカン 葬式まんじゅう かつぼうまえかけ ハンテン 袴 地下足袋 草履袋 長屋 床の間 土俵 トモエ学園 臨海学校 暈 国 技館 おうたどころ タイコ 三味線 水中花 山吹鉄砲 日 光写真 表札 紋所
-------------	--

また、林玉恵（2010）は『窓ぎわのトットちゃん』における文化関連の言葉の50語に対する中国語訳は「意識型、音訳型、直訳型、代用型、説明型、注釈型、新語型、省略型、不訳型、複合型」の10種類に分類した。その中で、「意識型、代用型、新語型」はそれぞれ「原語の意味に従って訳すこと。目標言語に存在する代用物や類似物で訳されることであり、目標言語にある事物に置き換えること。訳者による新しい言葉を作ること。」と説明した。¹²⁾ 林（2010）は詳しく分類したが、「意識、代用型、新語型」には実際には大きな差別がなく、「意識」の更なる分類だと考えられるため、本稿では全て「意識」として取り上げる。それで本稿では日本文化に関する言葉の56語の翻訳方法について主に「移植、意識、説明、削減、省略、説明、音訳、意識+音訳、注釈」の9つにまとめる。そのうち、林（2010）は「注釈型」を独立した一種類として取り上げた。しかし、注釈は訳語に依存するものであり、独立の存在ではないものである。また、異なる翻訳方法と一緒に併用されることによって、文化要素の伝達効果も異なると考えられる。従って、本稿では個々の「注釈」に基づき、詳しく「移植+注釈、意識+注釈、直訳+注釈、音訳+注釈」という形を用いて、文化関連の言葉に対する訳者らの訳語の選択、翻訳

11) 本稿での「文化の翻訳」の四つの分類については、「『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳における文化の翻訳：民俗信仰関連の言葉を中心に、『東アジア文化交渉研究』、第14号、2021年、265-275頁。」に参考するものである。ここでは詳しく説明しない。

12) 林玉恵、「日中翻訳における文化に関する語彙の訳語選びの問題点—『窓ぎわのトットちゃん』を例として—」『日本語最前線』、2010年、205-224頁。

方法の選択、翻訳特徴について考察する。また、特徴が見える具体例に当たって、各訳者が使った訳語や翻訳方法が各文化要素の伝達にどのような影響を与えるかについても考察する。

三 物質文化に関する言葉の翻訳状況

物質文化関連の27語は、食べ物、衣類、住宅、遊具などと関係しているものである。これらの27語に対して主に「移植、意識、直訳、省略、説明、削減、音訳、注釈」という8つの翻訳方法が用いられた。そのうち、注釈について、移植、意識、直訳を使った上で注釈という形で詳しい説明を加えた場合が主である。

表2は物質文化関連の言葉の翻訳方法の使用状況である。中国語訳15種類における上記の27語の訳語は意識188箇所、直訳99箇所、移植55箇所、削除33箇所、音訳12箇所、説明1箇所、省略1箇所である。また、移植+注釈8箇所、直訳+注釈3箇所、意識+注釈5箇所である。表2からわかるように、意識の割合を最も多く占めている。つまり、多くの訳者は原語の意味を理解した上で中国語にある概念や文化的要素に置き換える傾向があるといえよう。直訳、移植もある程度使われている。音訳、意識+音訳、説明はほぼない。削除はほぼ台湾版に集中しており、注釈の使用は主に大陸版に集中していることがわかる。

表2 物質文化関連の言葉の翻訳方法の使用状況

翻訳方法		大陸版	台湾版	合計
移植		19	36	55
意識		59	127	186
直訳		38	62	100
削減		5	28	33
音訳		2	10	12
意識+音訳		0	0	0
説明		1	0	1
省略		0	1	1
注釈	移植+注釈	4	3	7
	意識+注釈	2	3	5
	直訳+注釈	5	0	5
	音訳+注釈	0	0	0
	省略+注釈	0	0	0

表3は物質文化関連の言葉の具体的な翻訳状況であり、訳語の選択は様々であるが大きな違いが見当たらない。表2と合わせて見ると、物質文化関連の言葉の翻訳特徴は以下の3つにまとめることができる。

第一に、物質文化に関する言葉の翻訳では、意識が幅広く使われていることがわかった。そ

の27語のうち、21語が意識されている。例えば、食べ物、住宅、服などと関連している言葉のいずれも意識されている場合が見られる。意識された訳語のほとんどは、中国語の読者に親しみのある言葉に置き換えられていることが見られる。つまり、訳者らが中国語の文化に近づける選択をした面が強いと言えるだろう。また、既に述べたように、物質文化に関する言葉は、主に日本人の衣食住などに関わっているものである。そのうち、衣食文化に関する言葉に対して意識された場合が多い。また、訳語も一定していない、多様性があることが見られる。例えば、表3に示しているように、「佃煮」に対する訳語の「酱油加糖煮的小鱼小虾」、「魚、貝类、紫菜等海鲜制作的菜肴」、「鱼啦、虾啦」など、また「ハンテン」の訳語の「无领上衣」、「无领短上衣」、「外衣」、「棉袄」などのように、訳者らは原語を理解した上で様々な訳語を選択した。衣食文化以外の言葉も意識されているが、各訳者の訳語は大きな違いがなく、一致している傾向が見られる。そして、ほとんどの意識には注釈が付けられていないが、少数の訳者は意識された内容にも注釈を付けている場合がある。例えば、「地下足袋」に対する訳語の「水袜子」は、訳者によって「日本农民劳动时穿的胶鞋。(筆者訳：日本の農家は働く時に履くゴム制靴)」のような注釈がつけられている。「水袜子」は、「地下足袋」の防水性と靴下のような形の2点から、意識した言葉と考えられる。さらに、注釈を通して、「水袜子」は外履きの靴であること、日本の農家は働く際によく使われているものを読者に伝えた。以上のように、意識+注釈が用いられる場合は少ないが、意識と注釈を併用することによって、中国語読者に親しまれる訳語が用いられたが、注釈があるため、原語の文化に近づき、中国語読者に原語の文化的要素を知ってもらう効果もあると言えるのではないだろうか。更に、意識された内容からみると、訳者らは、原語を把握することによって、主に中国語読者にとって理解しやすい一般的なことばで訳している傾向が見られる。中国語読者に理解しやすい自国の文化語彙が使われた場合も見られるが、少ない。例えば、表3に示しているように、「ちくわ」に対する訳語の「魚丸、魚肉、魚醬片」、「玉子焼」の訳語「煮鸡蛋、煎鸡蛋、荷包蛋、炒蛋」のように、全て中国語読者の日常生活と関わる日常的な言葉で訳された。一方、「長屋」に対する訳語の「大杂院」、「三味線」に対する訳語の「三弦、三弦琴」のように、目標言語国の文化語彙が使われた場合も見られるが、少ない。

第二に、仮名と漢字が混ざっている言葉や仮名表記の言葉に対して、直訳と意識という方法で訳されている場合が多い。物質文化の関連の言葉の27語は、仮名表記の言葉、漢字と仮名を混ぜている言葉が多くあるため、よく使われている移植より、直訳と意識の方が原語をよく表現できる選択と言えるのではないだろうか。また、原作に仮名で表記されている言葉に対し、日本語に漢字表記があっても、訳者が直接にその漢字表記を借りる場合が見られるが、少ない。

第三に、上記の27語のうち、漢字で表記されている言葉、また漢字表記があるが原作にかなで表記されている言葉に対して、訳者らは日本語の漢字のまま移植した場合が多く見られる。更に、移植された内容に注釈を付ける場合も多い。注釈については、移植+注釈、意味+注釈、

直訳+注釈の3種類の注釈型にまとめたが、このうち、移植+注釈の使用は、遙かに他の注釈型より多かったことがわかる。しかし、「袴、長屋、地下足袋、表札、畳」に対して、原作に漢字で表記されても、大陸版や台湾版を問わず、ほとんどの訳者が移植を諦め、主に意識によって中国語にある類似している文化的言葉や、中国語の読者によく知られている一般的な言葉に置き換える傾向が見られる。

表 3¹³⁾ 物質文化関連の言葉の翻訳

翻訳方法	原語	訳語	訳者
移植	デンプ	田麩	李朝熙
	ちくわ	竹輪	王蘊潔、蕭曉、燕奴
	キンピラゴボウ	金平牛蒡	李朝熙
	長屋	長屋	力争
	草履袋	草履袋	燕奴
	トモエ学園	巴学園	未申、朱濂、陳喜儒、趙玉皎
意識	ちくわ	魚丸	趙玉皎、力争、黄靖淑、朱曉蘭
		魚肉	朱佩蘭
		魚醬片	李雀美
	玉子焼	煮鸡蛋	陳喜儒
		煎鸡蛋	王克智、趙玉皎
		荷包蛋	朱佩蘭
		炒蛋	黄靖淑
	佃煮	酱油加糖煮的小鱼小虾	未申
		鱼、贝类、紫菜等海鲜制作的菜肴	朱濂
		鱼啦、虾啦	陳喜儒
		红烧海味	趙玉皎
		海帶海藻	徐思
		海苔	李雀美、黄靖淑
		魚蝦類	朱佩蘭
		海帶	力争、朱曉蘭
		糖漬海味	蕭曉、燕奴
		紫菜	李朝熙
		海藻类	王蘊潔

13) 表3は物質文化関連の語彙の翻訳の一部分の例であり、全ての情報ではない。また、訳語の後に付けている番号は訳者の注釈があることを表している。注釈の内容はそれぞれ「①「田麩就是魚鬆。」、②「未申訳：壁龕高于席面，这里是指宫崎君已习惯于日本的盘坐或跪坐在席面上的习俗。陳喜儒訳：日本客厅里面靠墙的地方地板高出，用柱子隔开，用以陈设花瓶等装饰品，墙上挂画，一般不能坐在那里。王克智訳：房间里挂画轴和摆花的地方，不准人在那坐。」、③「日本农民劳动时穿的胶鞋。」、④「巴字圖案の日語發音與友江相同故將巴学園譯為友江學園以求順口。」である。

意識	ハンテン	无领上衣	未申
		无领短上衣	朱濂
		外衣	陳喜儒
		棉袄	王克智
		短褂	趙玉皎、王蘊潔
		上衣	徐思、李雀美
		短衫	朱佩蘭
		外套	力争、李朝熙
		外衣	蕭曉、燕奴、
		襯衣	黃靖淑、朱曉蘭
	畳（1回目）	席子	未申、朱濂
		草席	王克智
	畳（2回目）	席子	未申、朱濂
		草席	王克智
	長屋	大杂院	未申、朱濂、陳喜儒、李雀美、朱佩蘭、力争、蕭曉、燕奴、黃靖淑、李朝熙、朱曉蘭、王蘊潔
		平房	王克智
		长房子	趙玉皎
	トモエ学園	友愛小學	李雀美
		友縁學園	力争
		巴氏學園	蕭曉、燕奴、黃靖淑、李朝熙、朱曉蘭、王蘊潔、蕭曉
三味線	三弦	未申、陳喜儒	
	三弦琴	朱濂、王克智、朱佩蘭、力争、黃靖淑、李朝熙、朱曉蘭、	
直訳	トモエ学園	巴小學	徐思
削減	デンプ	なし	未申
	玉子焼	なし	徐思
	ちくわ	なし	徐思
	畳（1回目）	なし	陳喜儒
	畳（2回目）	なし	陳喜儒
音訳	トモエ学園	陶磨治	王克智
	畳（1回目）	榻榻米	趙玉皎、徐思、李雀美、朱佩蘭、力争、蕭曉、燕奴、黃靖淑、李朝熙、朱曉蘭、王蘊潔
	畳（2回目）	榻榻米	趙玉皎、徐思、李雀美、朱佩蘭、力争、蕭曉、燕奴、黃靖淑、李朝熙、朱曉蘭、王蘊潔
省略	キンピラゴボウ	牛蒡	黃靖淑
註釈	佃煮	佃煮①	王克智
	床の間	壁龕②	未申、陳喜儒、王克智
	地下足袋	水袜子③	王克智
	トモエ学園	友江學園④	朱佩蘭

四 文化的要素の伝達

筆者は上述の27語のうち、翻訳特徴がある「トモエ学園」を例として、各中国訳本の訳語および翻訳方法から日本文化が中国の読者へいかに伝達されたか、またその影響などを分析する。

「トモエ学園」は『窓ぎわのトットちゃん』に出てくる学校の名前である。戦前の昭和期に実在した学校であり、「トモエ学園」とは通称で、正式名は自由が丘学園と称し、幼稚園・小学校併設の私立学校である。¹⁴⁾ 当時の「トモエ学園」では、自由度の高い教育実践が行われており¹⁵⁾、黒柳徹子の『窓ぎわのトットちゃん』によって幅広く知られた。原作の「リトミック」の章に「学校の「トモエ」というのは、白と黒から出来ている紋所の一種の二つのトモエで子供達の心身両面の発達と調和をねがう」という説明がある。このことから、「トモエ」は子供達の心身両面の発達と調和をねがうということの意味していると言えるだろう。また、上述した説明を踏まえながら、「トモエ」の本来の意味を考察した。『日本語国語大辞典』によると、「トモエ」は「①尾を長く引いた曲線の円頭を大きく表現した分様の名称。俗に波頭を図案化したといい、弓具の鞆（とも）の形象に酷似することによる呼称。その形が左巻きか右巻きかによって左巴、右巴があり、円頭の組み合わせによって二つ巴、三つ巴がある。ともえの丸。ともえ波。②巴の文様を描いた軒や床の板の木口の部分。③巴の文様を描いた網代の車。④まるく一方に回る様子をたえていう語。⑤紋所の名。①を図案化したもの。」である。¹⁶⁾ 「学園」は漢字の通りに「学校」という意味が容易に理解できる。原作の表したい意味と辞書の解釈を踏まえ、「トモエ」は水の渦巻くような形の家紋の二つ巴からなるものであり、現在では「トモエ学園」は優れた自由自在な教育理念を代表している言葉でもあると考えられる。

かなの「トモエ」に対応している日本語の漢字は「巴」と言え、日本語の「トモエ学園」は「巴学園」のように漢字で表記することが可能である。また、「トモエ学園」に対して、訳者らは主に「移植、直訳、音訳、意識」を用いて訳した。訳語も様々である。「トモエ学園」に関する翻訳は二つにまとめることができる。

一つ目は訳語を通じて原語の意味を理解しにくい面があるものであり、それぞれ、未申訳、朱濂訳、陳喜儒訳、趙玉皎訳4人の訳語の「巴学園」、徐思訳の「巴小學」、蕭曉訳、燕奴訳、黄靖淑訳、李朝熙訳、朱曉蘭訳、王蘊潔訳6人の訳語「巴氏学園」と王克智訳の「陶磨治」である。訳語の「巴学園」については、訳者らは日本語の漢字の「巴学園」を借り、簡体字化してから中国語に移したものであり、主に大陸版に集中している。既に述べたように、原語の「ト

14) 森透、「教育実践史研究ノート（2）—研究方法論的吟味とトモエ学園の事例研究—」、『福井大学教育地域科学部紀要（教育科学）』、2006年、11-20頁。

15) 深谷和子、「黒柳徹子著 窓ぎわのトットちゃん」、『児童心理』、2018年2月、117-120頁。

16) 日本国語大辞典第二版編集委員会、『日本語国語大辞典』、小学館、2000年、第2版、第9巻、1351頁。

モエ学園」は漢字で表記することが可能である。また、日本語の「巴」は中国語にも存在している漢字であることが明らかである。従って、日本語の「トモエ（巴）学園」のままに「移植」されている条件があると言える。一方、『現代漢語詞典』¹⁷⁾によると、中国語の「巴」は「①盼望、②緊貼、③粘住、④挨着、⑤张开」という五つの意味がある。いずれにも、原語の「巴」の背後にある優れた教育理念に対応できないと考えられる。即ち、単に訳語の「巴学園」から見ると、中国語読者は「巴学園」が学校であることがわかると言えるが、「子供達の心身両面の発達と調和をねがう」という深い意味と繋がりにくい可能性があると考えられる。また、徐思訳の「巴小學」は「トモエ学園」は小学生向けの学校であるという点から着手し、直接に「巴小學」と訳した。上記の移植した「巴学園」と同様に、単に訳語の「巴小學」から見ると、中国語読者は「巴小学」が小学校であると理解できるが、言葉の背後にある深い意味を理解できない可能性があると考えられる。

また、訳語の「巴氏学園」については、訳者らは日本語の「巴」を借りた上で、家系を表す名称である「氏」をつけて意識した。原語の「トモエ学園」の創始者やまた小林宗作校長先生の姓はいずれにも「巴」ではないことが明らかである。単に訳語の「巴氏学園」からみると、「巴氏（さん）」を作った学校というイメージにする可能性があると言えるのではないだろうか。また、訳語の「巴学園」と「巴小學」と同じ、訳語を通じて学校の名前であることがわかると言えるが、言葉の背後にある深い意味を理解できない可能性がある。また、李朝熙訳には「トモエ」に関する説明の中で、原作にある内容を忠実に訳した上で、原作に言及されていない「トモエ」は日本の「家紋」の一種という内容を加えた。「トモエ」の本来の意味は水の渦巻くような形の家紋である。即ち、李朝熙などの6人の訳者は「トモエ」が日本の家紋であることを考えた上で家系を表す名称である「巴氏」を用いたと推測できる。

そして、王克智訳の「陶磨治」は「トモエ」の発音と似ている中国語の漢字で音訳したものである。訳語の「陶磨治」は三つの漢字の組み合わせたものであり、中国語の中に意味がある言葉として使われていない。単に訳語の「陶磨治」から見ると、「子供達の心身両面の発達と調和をねがう」ということだけではなく、学校であることもわかりにくい面があると言えるだろう。従って、中国語読者は「陶磨治」を読むと、優れた学校であるというイメージと繋がりにくい面もあると考えられる。これも多くの訳者は音訳を使わない重要な理由だと考えられる。

二つ目は、訳語を読むと、ある程度原語の意味や精神的なものが理解できるものであり、それぞれ李雀美訳の「友縁学園」、朱佩蘭訳の「友江学園」、力争訳の「友愛小學」である。全て原語を理解した上で意識されたものと考えられる。「学園」と「小學」は日本語の「学園」に対する訳語であり、原語の意味とはほぼ同じと言える。一方、「友縁、友江、友愛」は「巴」に対する訳語だと考えられる。日本語の「巴」の本来の意味と異なり、意識であると考えられる。そ

17) 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室、『現代漢語詞典』、商務印書館、第7版、2016年、17頁。

のうち、朱佩蘭訳の「友江学園」に対して、「巴字圖案の日語發音與友江相同、故將巴学園譯爲友江学園以求順口」という注釈をつけている。注釈の内容からわかるように、日本語の「トモエ」と「友江」の発音が同じであるため、「友江」と訳したことがわかるが、訳語の「友江」の背後にある精神的なものは説明されていないと考えられる。また、力争訳の序文で訳語の「友縁」について、「廿五章的「韻律」提到「友縁学園」由來，日語發音是「忒摸也」、字是「巴」，如果照字意來譯敘是行不通的，我改爲「友縁」兩個字，和日語發音相近，同時也能銜接書中意義」のように説明した。力争訳の序文から、「友縁」の日本語発音は「忒摸也」であり、漢字表記は「巴」であるが、日本語の「トモエ」の文字面の意味から解釈されにくいため、日本語の発音と似ている「友縁」が用いられた。訳語の「友縁」は本文の意義も繋がりがやすい言葉であると力争が説明した。

意識の「友縁、友江、友愛」から見ると、原語の「トモエ」から「トモ」と「エ」に分けられ、訳した可能性もあると考えられる。『日本語国語大辞典』によると、「トモ」と「エ」の日本語の漢字表記は多くある。「友達」の「友」は「仮名」の「トモ」の漢字表記で¹⁸⁾、また「江」¹⁹⁾、「縁」²⁰⁾、「愛」²¹⁾は仮名の「エ」に対応している漢字でもある。さらに、訳語の「縁」に関しては、「トモエ」の「エ」の書き方や発音が「エン」と似ており、訳者は「エ」が「エン」として考えた上で訳した可能性が高いと考えられる。つまり、訳者は「エ」が「エン」として考えた上で訳した可能性があると考えられる。訳者たちは原語の「トモエ」と同じ発音の漢字表記の中から「友江、友縁、友愛」というような原語の背後にある精神や信仰などと結びつけられる漢字で訳したと言えるのではないだろうか。また、「友江学園、友縁学園、友愛学園」はいずれにも中国語読者によく知られ、理解しやすい言葉であり、友達がいっぱいいる「愛、縁」が溢れる学校のイメージと繋がりがやすい言葉でもあると言えるだろう。すなわち、訳語を通じて、言葉の背後にある小林先生が学生達に対する期待や念願などがわかると言えよう。

訳者らの訳語の選択は様々であり、訳語を通じて、原語の背後にある精神的なものを読者に伝えられない訳語も含まれている。しかし、前述したように、著者は原作の「リトミック」の章に学校の「トモエ」に関する説明があることも明らかである。また、上記の15人の訳者全ては説明の部分を原作の通りに訳した。従って、「巴学園」、「巴氏学園」、「巴小學」、「陶磨治」はいずれにも、単に訳語を読むと、確かに理解しがたい面があるが、本文に説明があるため、訳語の違和感を減らさせた可能性もあり、読者の理解を妨げないと考えられる。次に、李雀美、朱佩蘭と力争の3人の訳者の意識された「友江学園、友縁学園、友愛学園」を通じて、ある程度原語の背後にある小林先生が学生達に対する期待や念願などを読者に伝えられたが、「リトミ

18) 日本国語大辞典第二版編集委員会、『日本語国語大辞典』、小学館、2000年、第2版、第9巻、1347頁。

19) 日本国語大辞典第二版編集委員会、『日本語国語大辞典』、小学館、2000年、第2版、第2巻、558頁。

20) 日本国語大辞典第二版編集委員会、『日本語国語大辞典』、小学館、2000年、第2版、第2巻、560頁。

21) 日本国語大辞典第二版編集委員会、『日本語国語大辞典』、小学館、2000年、第2版、第2巻、561頁。

ック」の章の「トモエ」に関する説明の翻訳によって、読者らはこの言葉の背後にある精神や信仰などが更にわかるようになる効果もあると考えられる。更に、現在、大陸と台湾に流通している趙玉皎訳と王蘊潔訳ではそれぞれ「巴学園」と「巴氏學園」が用いられており、「巴学園」と「巴氏學園」は日本現代文学に描かれている優れた教育理念や学校として幅広く中国語読者に知られている。

また、現在中国大陸には原作と同名の「巴学園」が多くあり、の中で最も有名なのが「李躍児芭学園」である。「芭学園」の創始者である李躍児は「巴学園」をモデルにして「李躍児芭学園」を作った。²²⁾ 学校は児童の心身の調和を重視し、楽しく成長することを期待している。また、李躍児によって書かれた『把幸福还给孩子』と『谁拿走了孩子的幸福』などの教育書は中国における『窓ぎわのトットちゃん』の実現と言われている。²³⁾ 言い換えれば、『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳を通じて、「トモエ学園」という言葉の背後にある教育理念も同じように読者に伝えていたと言えるだろう。

終わりに

本稿では物質文化に関する言葉の翻訳方法と翻訳状況を考察した上で、特徴がある具体例を通じて、原語の背後に載せられている文化要素がどのように読者に伝えられているかについて分析した。訳本が多いため、訳し方の選択と言葉遣いも様々であり、同じ言葉に対して、異なる訳者は異なる角度から解釈する傾向が見られる。しかし、言葉の自体が音から意味に至るまで多くの文化要素が含まれ、多様性と複雑性を持っているため、それぞれの言葉の背後にある文化要素がより全面的に伝達されることは難しい面があると考えられる。また、同じ漢字文化圏の日中両言語は、他の言語より移植の訳し方が用いられる便利があるため、移植されたケースが多く見られる。しかし、そのまま移植されることによって、原語の意味が伝達されていない、あるいは意味が理解されにくい場合も見られる。そして、文化語彙と関連している解釈がつけられている場合が多いため、訳者は単にその言葉を注目することだけではなく、文脈の把握も読者の異文化への理解に影響を与える重要な要素であると考えられる。最後は、「トモエ学園」の訳語の定着及びその影響から、訳者らは文学作品の翻訳を通じて異文化伝播に貢献したことが指摘でき、異文化間の差異を縮小する重要な過程でもあると言えるだろう。

22) 屈豎萌、「『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の伝播状況」、《東アジア文化交渉研究》、第15号、2022年、209-220頁。

23) 『谁拿走了孩子的幸福』の扉によると、「『窗边的小豆豆』在中国最生动的实践」と書いている。